３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.488-489

ほぼ”１クラス”分のメンバーで竹林整備

【定例活動報告】小原本陣の森

第１日曜日の活動より

　小原は里山にあるため最近の雨の為に散った桜もここでは今を盛りに咲いてとても陽気の良い日であった。
　森林整備班にフォレストクラスの2名と大月で農業を勉強されている若者の参加があり6名で、小原活性化協議会から要請のあった、孫山ハイキングコースの倒木処理に向かった。
　前回の下見で5本の倒木が確認されているので、その倒木処理のためチェンソーやロープなど大装備である。倒木が登山道の反対側の樹木に寄りかかり相当高い位置の伐倒処理が必要になるため作業手順の確認と役割分担を行っての作業になった。フェリングレバーでは太い樹形に届かずロープとクサビを駆使し二人で

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

押し回し他が寄りかかった樹木の保全と安全確保により無難に撤去することが出来た。

同様な倒木を3本処理を行って、孫山頂上手前の倒木を次回に廻して、県が作道した作業道（中央の沢筋の道）を下った。この作業道は１年半前に県が作道した素晴らしい経路であったが、今回見ると雨で削れ雑草が覆い当時の美しい道の面影が無くなっていた。登山者が歩かないことや地図に無いこともあり利用がされていない状態にあった。

整備を進め登山者に歩いてもらえるよう町内を挙げてアピールして頂けると助かります。

第３日曜日の活動より

小原活性化協議会の小林会長の竹林整備を頼まれ作業を行った。藤原、埴原、原田、粟田、石井、小林の6名で作業範囲と作業手順を確認し始めた。危険箇所はロープで立ち入り禁止区域を設けた。

午後から、若者の森の中学生が大勢加わってくれ安全に注意しながら作業は随分捗った。竹は3mに切り揃え積み上げた。竹は畑のハウス作りに使うための長さとした。

竹林のとなりにお住いの方は、ご自分の庭の借景が竹林になるためきれいに整備され大変喜ばれ、差し入れを頂いた。

今回は作業が誰かのためになっていることを子供達にも実感して頂ける実習になったことが収穫であった。

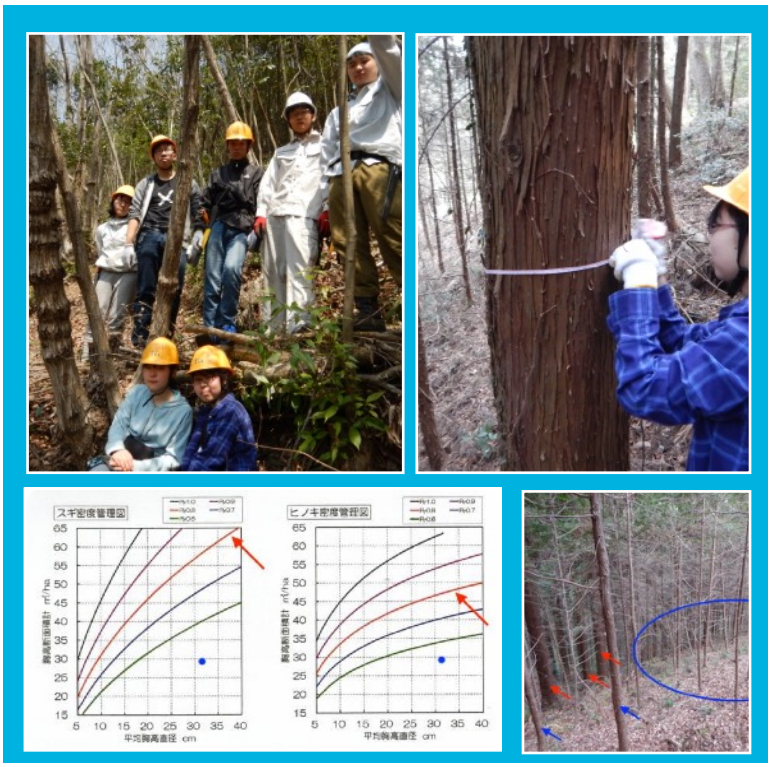
小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

4月より、知足の森での定例活動は月２回となりました。今月の活動では新年度になり、受験を終えて参加を再開した新高校生が多数参加していたこともあり、まずは基本的な作業、ということで、広葉樹の除伐作業を行いました。久しぶりの作業ということもありましたが作業自体は手慣れたもので、次々と木を整理し、森がみるみる明るくなっていくのが気持ちのいい活動になりました。斜面上部に向かって作業を進めていますが、ふと生徒が作業道がある、と声をかけてくれました。見ると確かに作業が進んでいる斜面を横切るように道があります。この広葉樹の斜面区画にはU字を横にしたような作業道があり、いつの間にかその上の部分まで作業が進んでいたようです。当時はU字の先で道が止まっていてそれ以上進みようがなかったのですが今は明るい斜面が広がっている光景はなかなか感慨深いものがあります。地図上ではまだまだ手入れが必要な部分がありますが、これからも継続して作業を進めてたいと思います。

午後からは別の斜面で、15から20年生にもかかわらず、成長が芳しくない斜面の実態調査を行いました。明らかに径が太い木（次ページ右下写真の赤矢印）とそれらの成長を邪魔されている木（青矢印）とに、樹種（はスギヒノキですが）が分類できる斜面です。そこで、仮に細い木を全部切ってしまうとどれくらい残るか、断面積の合計／斜面の面積を求めようという調査を行いました。面積についてはハンディGPSのデータからGISを使って簡易的に求めてあるので、太い木の胸高直径から求めた断面積の合計が必要になります。太い木にナンバリングをし、胸高直径を求める作業をしました。その結果、対象面積0.2ha、



本数76本、haあたりの断面積合計29.5 m² / ha、平均胸高直径32 cm という計算になります。右下画像の密度管理図というグラフの中にRyという値があります。どれくらい間伐するべきかわかる値、0.8までの曲線（グラフの赤矢印）に全て切ってしまうと全然届かないことがわかります（青い点）。よって青矢印のような細い木を全部切ってしまうと、スカスカの森になってしまうことです。今後は桜井先生にも相談しながら作業計画を立てていきたいと思います。

第３日曜日の活動より

今月は、学芸大小金井中から新3年生が多く参加してくれました。初参加者が大半だったため、前回の細い木が多く、手入れされていない森を見てもらいながら、桜井先生にもアドバイスをもらうという活動を兼ねての間伐としました。前回の調査結果から細い木をやたらめったら切ってしまうと、本数的には間伐しすぎになってしまうため、今回はまず枯れていたり、曲がっていたり、といった劣勢木を自分たちで選び、大人スタッフからOK出たら自分たちで切る、というスタイルにしました。ここもそれなりに斜面の角度がきついので、最初は歩いて、目的の木まで移動するのが精一杯でしたが、所属学校、経験の有無をミックスする方式でチームを作っていたので、互いに教えあいながら、作業が進みました。何回か参加し、コツを掴んでいる生徒の自信を持って指導する姿に成長を感じます。桜井先生によれば、境界線を中心に広葉樹が植えてあり、それがかなり成長してしまっており、細い木の成長を阻害しているが、今すぐどちらかを切るべき、というわけでもないということで、まずは劣勢木を整理する方向で作業を進め、いくらか作業が進んだ時点で毎木調査をかけることにしました。

午後からは、これも前回の続きの広葉樹の除伐でも、と思っていましたが、小原チームから竹林整備のヘルプが来ていたため、全員でそちらに移動し、竹の間伐を手伝いました。総勢のメンバーを数えると、ほぼ１クラス分の人数。作業はあっという間に進みます。竹の方は、一人で作業できるため、最初から最後まで一人でやり切れる、という面白さがあります。また竹が道路や、隣の畑まで侵入してしまっており、これを整理する、というのもやりがいのある作業だったようです。初参加者が多かった回でしたが一様に充実感があったようで、週があけて学校が始まると次はいつですか、と聞いてくれる生徒も多く、次回以降の彼らの活躍、成長が楽しみです。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「リョウブ(*Clethra barbinervis*)」

図1. リョウブの漢字
20080829箱根大涌谷

図2. 輪生状に互生する葉
20170513日比谷

図3. リョウブの花20180818草津

図4. リョウブの樹皮20180818草津

図5. 樹皮を剥かれたリョウブ
20181019三頭山

リョウブは日本の山地のほぼどこにでもある中高木で、生育立地を特には選ばないようです。漢字では「令法」と書きます。古い時代、救荒植物として乾燥させた葉の備蓄や畑地での育成が法令で命じられたためこの名が流布したといわれます（図1）。

若葉には灰汁（あく）がない山菜です。食べてみた経験では特段の旨味はありませんし茹でても他の多くの山菜のようには柔らかく、あるいは滑らかにならずザラザラした食感でおいしいものではありませんでしたが、細かく刻めば充分に汁の実になると思いました。

互生する葉が枝の先に輪生状に付きます（図2）。6~8月に白い小さな花を総状花序にたくさんつけます（図3）。何よりの特徴はサルスベリ(*Lagerstroemia indica*)やナツツバキ(*Stewartia pseudo-camellia*)に似た樹皮で、灰褐色の樹皮の一部が不揃いな長楕円状の鹿の子模様にはげ落ちた跡が明褐色に目立ちます（図4）。表面が滑らかに見えるのでサルスベリと呼ぶ地域があります。ちなみにサルスベリの呼び名は本家の百日紅のほかナツツバキにも与えられています。リョウブの樹皮はシカが好むようで、野生シカの多い地域では食害を受けているのが多々見られました（図5）。

大きな木ではなく沢山群生するわけではないので資源として豊富ではありませんが、古来から食用として重要視されたこと、材は緻密で丈夫なため器具家具材として有用なこと、炭にもいいなど多くの利点が知られているのでもっと注目されていい植物です。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

竹林整備から見る林業プロの視点

4月の活動は前回までの木材搬出とはうって変わり、小原エリアでの竹林整備を実施しました。今月より新たなフィールドとして、小原の入山を整備を視野に入れていました。しかし、まだまだ未知数なところがあり、孫山又は高尾、小仏峠を小原へ繋げるようなビジョンを持ったルート開設

を進めたいと思い試行錯誤しているところです。

午後からは小仏と小原の間にある美女谷と呼ばれるあたりを視察しましたが、沢もあり自然が深く残されてる場所だと思いました。途中に特大のカエルがうじゃうじゃ沢から道路に繰り出していて不気味でしたが、それが逆に神秘的な雰囲気だと感じました。

午前中の竹林整備の話に戻って感じたことは、林業視点から学ぶ森林整備の在り方でした。それは技術的な事ではなく、人対人の仕事の仕方が重要であるということ。

メンバーの林業のプロ、二藤さんと二人一組で竹林に向かいましたが、常に周りの環境に配慮して傷つけないように、次の作業がやりやすいように竹を選定していく所を学びました。

3メートル幅に竹を処理して片付けていきますが、目の前の竹を次々と倒していくのではなく、どうやったら効率よく進められるか3つの視点で行なっていきました。

[1]倒してはいけない方向（畑や草花など保護物）を決める。
[2]作業エリアの中で竹を倒しやすい順序で選定していく。
[3]倒した竹を小さなエリアごとに集約させて、枝打ち、玉切りなどを一気に行う。

また、蚊が発生しないよう、竹の節のすぐ上を切り、水がたまらないようにするなど配慮しました。

効率よく作業するだけでなく、周りに配慮して安心してもらう、次の人が気持ち良く作業してもらうといった考え方がどんな仕事においてもお客様視点という所で通用すると思い、共感しました。地元の人にもっと理解してもらうためにも今回の作業視点を忘れずに来月以降も活動に臨みたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Foresto Nova

今月ForestNova☆は５月の若葉まつりのための材料集めと、小原地域での竹林整備の手伝いをしました。今年のForestNova☆の目標が木工作品の制作と販売による森林資源の活用に決まり、それについて緑のダムの方々から助言をうけて今後どんなものを作っていくか嵐山に残った木材を見て決めながら、桜まつりの材料を集めることにしました。二年生たちが木工で作りたいものはスプーンや皿などの食器と楽器だそうです。制作方法を調べて後輩にアドバイスできるようにしたいと思いました。竹林伐採に行くと竹がパンフルートなどの楽器に使えることに気づき、伐採した竹も少し持ち帰ることにしました。竹林には残念ながらタケノコはありませんでしたが楽器の材料を集めることができて良かったです。どんなものが作れるか分かりませんが後輩達が満足のいくものができるよう頑張っていきたいと思います。

また竹林整備の予定がありましたらお声がけください。

五味　輝史（Forest Nova）

事務局から

相模原若葉まつりに参加します

毎年4月に行われております相模原桜まつりですが今年度は地方選挙と重なる年度ということで、5月に若葉まつりとして開催されます。本会も例年通り、市役所横第２駐車場２階にて、間伐体験、積み木スペースなどを行います。また関連する、Foresto Class（活動紹介、スウェーデントーチの展示）、Forest Nova（木工体験）のブースもありますので、みなさまの参加をお待ちしております。

日時：５月11日土曜日　13時から17時、12日日曜日　10時から17時

場所：相模原市役所　第２駐車場２階、相模原駅より会場まで無料シャトルバスがあります。写真は昨年度の様子です。

積水ハウスマッチングプログラムに採択されました

昨年度に続き、同助成金のご支援をいただけることになりました。若者の森づくりを中心に、活用させていただきます。ご支援ありがとうございます。

インスタグラム始めました

本会のSNSツールとしてこれまでFacebookを活用してきましたが、若者の森づくりに参加する高校生から、若者向けであれば、インスタグラムの方が広まりやすい、ということで、彼ら自身の手で運営し、活動広報をすることになりました。アカウントをお持ちの方はぜひフォローお願いいたします。また活動広報の第１段として、5月に行われます相模原若葉まつりにて、積み木広場と連動した告知を行います。下のネームタグをアプリで読み込んでいただくと簡単にフォローしていただけます。

SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。